

# 台風第19号の被災対応に係る 福島県郡山市への派遣について



京都市環境政策局 循環型社会推進部 まち美化推進課  
業務推進・減量推進担当課長 宮本 博市

# 1 郡山市の概要

人口 332,000人 世帯数 143,000世帯  
面積 757km<sup>2</sup>

郡山市を流れる阿武隈川，藤田川他複数の河川において越水，溢水，氾濫等による水害が発生した。



被害状況(12月26日10時00分現在の抜粋)

## 【人的被害】

- (1) 死者6名(10月13日2名，14日2名，15日1名，18日1名)
- (2) 負傷者1名

## 【家屋被害】

浸水被害推定最大約21,331世帯(旧郡山・安積・富久山・田村・日和田・西田)

## 【環境関連施設】

富久山クリーンセンター，衛生処理センター，リサイクルセンター

## 2 災害支援作業の概要

京都市環境政策局では、令和元年10月23日から福島県郡山市において、職員を派遣し、道路や民家に排出されている災害廃棄物を臨時集積場へ収集・運搬する作業等を行った。

- 派遣期間：令和元年10月23日及び10月25日～11月22日まで
- 派遣人数：64名（先遣隊・本隊）
- 派遣車両：6台  
（内訳）2トンプレスパッカー車：3台  
          ダンプ車                              ：1台  
          連絡車                               ：2台
- 隊の編成：1隊14名を8日間、4隊まで編成
- 隊の構成：隊長1，作業員12，事務1
- 収集量計：約454トン





収集場所を分担し、情報共有しながら作業を行いました。



集積所まで運ぶことができず、各家庭の前に排出された災害ごみも収集しました。



クリーンセンターが被害を受けたため、生活ごみを近隣市のクリーンセンターまで再搬しました。





パッカー車では収集できない家電や畳は、ダンプ車に積んで収集しました。

収集作業開始前



安全作業に努め、職員全員で協力しながら、ワンチームで収集作業を行いました。

収集作業終了後



# 3 災害支援作業を終えて



## (1) 被災都市との調整

- ・京都市では、災害ごみの収集作業を行う体制で郡山市に入り、水害を受けた地域の災害ごみの収集を中心に作業を行った。
- ・郡山市は、河川の氾濫でクリーンセンターが被害を受け、生活ごみの搬入ができず、他都市施設への再搬を望んでいたが、その体制確保に時間を要していた。
- ・被災都市には、支援都市の体制が最大限活用できる作業内容を提案することも必要。
- ・平時から、通常業務を委託している事業者との関係構築が重要。
- ・クリーンセンターが被害を受けた自治体のニーズと、支援に入る民間・自治体等の体制とのマッチングや調整が難しい事例と感じた。

## (2) 自己完結型の支援体制構築を目指して

- ・1週間当たり14名体制を4週間派遣したが、京都から宿泊施設、車両の整備工場、給油所等を確保するのは難しい。
- ・支援に入る主体ごとに作業区域を決め、その区域内を任せてもらう方がよい。
- ・仮置き場への搬入調整についても任せてもらえるとよい。